

ソーシャルワークの理論と方法I

科目コード

CC3093



単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	三浦 剛

科目の概要

■科目の内容

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理の理解の上に、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて、面接授業や印刷教材による授業で学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても同様に学ぶ。

■到達目標

- 1) 人と環境の交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。
- 2) ソーシャルワークのさまざまな実践モデルとアプローチについて説明できる。
- 3) ソーシャルワークのプロセスと活用する知識や技術、価値について説明できる。

■教科書（「ソーシャルワークの理論と方法II」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕12 ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）』中央法規出版、2021年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

とくに「専門的知識」「クリティカルシンキング力」「アセスメント力」「問題解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+スクーリング評価 or 科目修了試験60%

■参考図書

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座〔共通科目〕13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人と環境との交互作用に関する理論について	人と環境の交互作用について理解するために、生態学的な視点とその背景理論としてシステム理論について学ぶ。
2	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ1	治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルを取り上げ、それぞれの特徴と適用時の留意点について理解する。
3	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ2	心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチなど主要なアプローチを取り上げ、それぞれの特徴と違い、適用時の留意点について理解する。
4	ソーシャルワークの過程1	ソーシャルワークのプロセスの全体像を確認した上で、「ケース発見」及び「インテーク」、「アセスメント」及び「プランニング」について目的や意義、実施の留意点について理解する。
5	ソーシャルワークの過程2	ソーシャルワークのプロセスのうち、「支援の実施」、「モニタリング」、「評価」、「集結とアフターケア」について目的や意義、実施の留意点について理解する
6	ソーシャルワークにおける面接とは1	面接の目的や特性、面接を展開する際の支援者の態度や姿勢、コミュニケーション技法等を確認する。
7	ソーシャルワークにおける面接とは2	具体的な援助事例の展開から面接の実際を確認し、理解する。
8	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法	ソーシャルワークにおける記録の目的や意義、記録の方法について学ぶ。また、ITの活用や留意点も合わせて学習する。記録の実際に触れることで理解を深める。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング 評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

教科書の第1章から第10章まで読んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	ソーシャルワーク理論と枠組み1（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークの背景理論であるシステム理論、生態学理論について	教科書をよく読み、理解すること。
2	ソーシャルワーク理論と枠組み2（第1章、他参考図書等）	ソーシャルワークのモデルについて	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルについて、事例を参照しながら、具体的に学んでください。
3	ソーシャルワーク理論と枠組み3（第1章、他参考図書等）	ミクロからマクロ・レベルまでの連続性、共生社会作りにつながるソーシャルワークの目標、展開過程について	ミクロ、メゾ、マクロの各視点と連続性について、事例を参照しながら具体的に学び、開発機能の重要性について理解してください。
4	ソーシャルワークのプロセス（第2章、他参考図書）	ケースの発見からインテーク、契約まで	ソーシャルワークのプロセスにおけるこの段階を、事例を参照しながら具体的に理解してください。
5	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの意義、目的、重要性について理解し、ソーシャルワーク・プロセス全体における意味を具体的に理解してください。
6	ソーシャルワークのプロセス（第3章、他参考図書）	アセスメント	アセスメントの方法と留意点を、事例を参照しながら、具体的に理解してください。
7	ソーシャルワークのプロセス（第4章、他参考図書）	プランニング	プランニングの意義と目的、およびメゾ、マクロ・レベルにつながる視点を学び、事例を通してその方法を具体的に学ぶ。
8	ソーシャルワークのプロセス（第5章、他参考図書）	支援の実施（介入）とモニタリング	支援の実施を、特にメゾ、マクロ・レベルへの連続性を意識しながら具体的に理解してください。また、モニタリングの重要性を、目的、方法とともに理解してください。
9	ソーシャルワークのプロセス（第5、6章、他参考図書）	効果測定（プロセス評価、結果評価）と終結、アフターケア	効果測定の意義、意味、必要性とその方法を、教科書を読んで理解してください。また、終結に至るプロセスを、事例を通して具体的に理解してください。
10	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ1（第7章、他参考図書）	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ	史的展開をふまえ、その考え方と今日的課題について、教科書を読んで学んでください。
11	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ2（第7章、他参考図書）	様々なアプローチ	心理社会的アプローチ以下、様々なアプローチについて、事例を通して具体的に理解してください。
12	ソーシャルワークの面接（第8章、他参考図書）	ソーシャルワーク面接の意義と目的、および方法	ソーシャルワーク面接の意義と目的を、教科書を読んで理解してください。面接事例をとおして、具体的にその構造や留意点について学んでください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	ソーシャルワークの記録（第9章、他参考図書）	ソーシャルワークの記録の意義、目的と方法	ソーシャルワークの記録の意義と目的を、教科書を読んで学び、実例を通して、フォーマットや記録の内容を学んでください。
14	ケースマネジメント1（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの原則、意義	史的展開もふまえ、教科書を読んでケースマネジメントの原則、意義について理解してください。
15	ケースマネジメント2（第10章、他参考図書）	ケースマネジメントの実際	事例を参照して、ケースマネジメントの方法を具体的に理解してください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	ソーシャルワークの人と環境の相互作用におく視点、生活モデル、代表的なアプローチ（たとえば心理社会的アプローチ、機能的アプローチ）について説明し、また、ソーシャルワークの過程とその留意点をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題の概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的なイメージを持つこと。

1 単位め
アドバイス

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

2 単位め
アドバイス

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。また、概念を個別に説明するだけでなく、ソーシャルワークの枠組み、ミクロからマクロ・レベルへの連続性などへも視線を向けてください。

科目修了試験

■評価基準

- 1) 科目全体の内容について問います。
- 2) 各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。
- 3) 題意を正確に把握するように努めてください。
- 4) 800字以上が必要な記述の分量です。